「明るい家庭づくり」「家庭の日」に関する作文の入賞発表

〈小学校低学年の部〉
最優秀賞
ひわたし　まゆこ（大野小1年）
「おにいちゃんとなかよし」
優秀賞
とくなが　すぐる（大野小2年）
「さどのおじいちゃんと」
奨励賞
丸山　ゆうさく（板井小1年）
「みんなでやったくさとり」
奨励賞
ふじよし　ゆうや（板井小2年）
「がんばるおじいちゃん」
奨励賞
わたなべ　ゆかり（木場小2年）
「おばあちゃんのしごと」

〈小学校中学年の部〉
最優秀賞
茨木　瞳（板井小4年）
「わたしのおばあちゃん」
優秀賞
小林　加奈（山田小3年）
「家庭でのそれぞれの仕事」
奨励賞
ひわたり　あやこ（大野小3年）
「私にできること」
奨励賞
保刈　佐和美（黒鳥小4年）
「夏休みにあずかった犬」

〈小学校高学年の部〉
最優秀賞
山口　航（大野小5年）
「大変だった二週間」
優秀賞
山崎　智之（板井小6年）
「おばあちゃんのすごさ」
奨励賞
笹川　優（立仏小5年）
「弟の入院」
奨励賞
江端　美恵子（黒鳥小5年）
「茶豆もぎの手伝い」
奨励賞
中野　友博（黒鳥小6年）
「ぼくの家の梅干し」

〈中学校の部〉
最優秀賞
鈴木　奈津子（黒埼中3年）
「地域とのかかわり」
優秀賞
法龍院　友里（黒埼中3年）
「我が家族」
奨励賞
横木　直子（黒埼中1年）
「祖父の入院」
奨励賞
横山　喬之（黒埼中2年）
「父と家族」
奨励賞
本間　陽子（黒埼中2年）
「兄弟三人の最大の計画」

小学校低学年の部　最優秀賞
おにいちゃんとなかよし
大野小学校一年　ひわたし　まゆこ

　まゆこのおにいちゃんは、やさしいおにいちゃんです。おるすばんをするときは、いつもおにいちゃんといっしょです。おにいちゃんがきのうたまごやきをつくったから、まゆこもまねをしてつくりました。おにいちゃんがたまごにめんつゆをいれていたから、まゆこもいれました。たまごをぐちゃぐちゃにしていたから、まゆこもぐちゃぐちゃにしました。おいしいたまごやきでした。

　おにいちゃんは、いつもいっしょにあそんでくれます。それからりょこうにい、といっしょにプールにはいったり、おふろもいっしょにはいってくれます。まゆこのおおさまみたいです。まゆこがミニおおさまです。おにいちゃんのほうがえらいけど、おうちではふたりともいばっているから、おおさまとミニおおさまです。

　おにいちゃんがへんなことをいってきて、くちげんかになることもあります。なんかいもいいあいをしてすごくはらがたちます。でもごはんのときになると、おにいちゃんが
「なかなおり。」
といってくるので、いつもすぐになかなおりになります。おおさま、やさしい、いじわるおにいちゃんです。

　ふゆになると、ゆきだるま、ゆきがっせん、ぽろんにひっぱってもらってそりあそびもします。そういうときは、どっちがのるかでけんかになります。かえりになるとどっちかが、
「こらっ。」
といいながらおいかけてはしります。おいついたら、あるいてかえって、いっしょにストーブにあたります。

　はるになって一ねんせいになるとき、なんにもいってくれなかったけど、きっと
「まゆちゃん、おめでとう。」
ってこころのなかでいってくれたとおもいます。ありがとうおにいちゃん。

小学校中学年の部　最優秀賞
わたしのおばあちゃん
板井小学校四年　茨木　瞳

　わたしの父と母は、仕事のため、ふだんは家にいません。だから、夏休み中は、おばあちゃんと兄、わたしの三人でるす番をすることがほとんどでした。

　お昼になると、母が前もって作っておいてくれたものを食べることになりますが、そうでない時は、三人で昼食の準備をすることになります。おにぎりを作ったり、フレンチトーストやたまご焼きなども作ります。そんな時、おばあちゃんは、いつもいつも、
「火に気をつけろ。やけどするな。」
と、うるさいくらい言います（うるさいなぁ。分かってるって。）と、わたしは心の中で思ってしまいます。でも、よく考えてみると、おばあちゃんは、わたし達、まごのことを心配して言ってくれているので、ありがたいなと思います。

　おばあちゃんは、朝と夕方の二回、毎日のように、お仏だんの前でおきょうを読んでいます。わたしも、たまにいっしょに読むけれど、おばあちゃんのようにはうまく読めません。

　それから、おばあちゃんは、ひまさえあれば、よく畑へ行きます。おきょうだけでなく、作物の苗の植え方や世話の仕方なんかも教えてくれます。おばあちゃんといっしょにいると、いろいろな事が分かります。

　そんなある日の夕方、こまった事がおこりました。兄が出まどの角に顔をぶつけて、前歯の一本が半分かけてしまったのです。わたしは、びっくりしてしまって、どうすることもできなかったけど、兄は鏡を見てから、
「おばあちゃんに知らせなきゃ。」
と言って、急いで走って行きました。三人で、自転車に乗って近くの歯科医院へ行きました。あまり急いでいたので、道を一本まちがえるほどでした。兄は着くまでの間、かけた歯を、だいじそうに手の中でにぎりしめていました。治りょうが終わると、かけた歯は色ちがいでくっついていました。わたしは、（急いで行ったかいがあってよかった。）と思いました。兄もにっこりとして、うれしそうでした。

　おばあちゃんが、いつも家にいてくれるので、こまった時はとても助かります。そんなおばあちゃんのために、わたしはお手伝いをたくさんして、少しでもおばあちゃんを楽にさせてあげたいと考えています。

　もうすぐ敬老の日です。庭のそうじや畑仕事のお手伝い、おばあちゃんがいつもがんばっていることを、わたしもいっしょにできたらいいなと思っています。そして、いつまでもわたし達のおばあちゃんでいてくれるように、長生きをしてほしいなと願っています。

小学校高学年の部　最優秀賞
大変だった二週間
大野小学校五年　山口　航

　アイスリンクのプールから帰って来て、げんかんを開けようとしたら、開くはずの玄関が開かなかったので（おかしいな。）と思いながら、うら口から家に入りました。

　家にはだれもいなかったので、おなかがいたくて病院へ行ったお母さんのことが少し心配になったので、遊びに行かないで家で待っていました。弟はすぐに友達の家に行ってしまいました。

　しばらくして、お父さんから電話がきて、
「お母さんが、急に手術をしておなかを切ったから入院するよ。だから、もう少ししたら迎えに行くからね。」
と言って電話をきりました。

　その話を聞いて、ぼくはとても心配になりました。色々考えながら待っていたら、おとうさんが帰って来たので、弟を呼んですぐ病院へ行きました。

　車の中で、お父さんの話を聞いているうちに（今お母さん一人でどうしてるのかな。）とどんどん心配になってきました。でも弟は平気な顔をしてさわいでいるので（たくとは、お母さんの事が心配じゃないのかな。）と思いました。

　病室に入ると、お母さんがニッコリ笑ってくれたので、安心しました。お母さんが
「急に入院になったけど、二人ともお父さんの言うことを聞いて、いい子にしててね。航はお兄ちゃんなんだからお願いね。」
と言いました。お母さんが家にいないなんて、ぼくはちょっと不安になりました。

　お父さんは、二日間休みをとってくれて、昼も夜もお母さんの所へ連れて行ってくれたり、ごはんも、一生けん命作ってくれました。

　だけど、お父さんが会社に行くようになると、ぼくは、部活があるので出かける時、家のカギをしめたり、ガスの元せんをしめたりしなければ、なりませんでした。

　毎日毎日、お父さんは、朝早く起きて朝ごはんを作って、ぼくたちのお昼ごはんを作ってせんたく物をほして、会社へ行きます。そして、帰って来ると夕食を作って、せんたくをして、お母さんの入院している病院へ行く毎日が続きました。

　お母さんがいないと、家の中が大変なんだなと、つくずく思いました。ぼくたちには、何も言わなかったけど、お父さんが、こんなに何でもできるとは思いませんでした。

　二十九日の水泳大会の時は、お父さんがお弁当を作ってくれました。とてもおいしかったです。水泳大会が終って病院へ行き、お父さんがビデオでとった大会を、お母さんに見せてあげました。そしたらお母さんが
「入賞できなくて残念だったけど、航のクロールはホームがきれいだね。」
と言ってくれました。

　そして、何日かたって、お母さんが動けるようになりました。僕たちが帰る時、見送りをしてくれるようになりました。

　大変な二週間がたって、お母さんが退院する日が来ました。ぼくたちはお母さんが待っている病院へ迎えに行きました。お母さんは病院を出ると
「カレーとピザとラーメンが食べたい。」
と言ったのでお父さんが夕食にカレーを作ってくれました。やっぱり、お母さんが家にいるのが一番だと思いました。お母さんが「お父さんが、いろいろしてくれてよかった航と拓人も大人になったね。」と言いました。ぼくは（お母さんが退院してよかったな。ずっと大変だったけど、いい経験になったな。）と思いました。

　夏休みどこへも行けなかったので、お母さんが元気になったら、家族4人で旅行に行きたいです。

中学校の部　最優秀賞
地域とのかかわり
黒埼中学校三年　鈴木　奈津子

　わたしの家の家族構成は、父、母、兄、祖母、わたしの5人です。

　わたしの家の前には、3と8のつく日に市がたちます。わたしが生まれた時から、ずっとやっているので、市に出る人は、たいていわたしのことを知っています。

　市のたつ日は、朝、早くから、騒がしいので、両親は、「朝早く目が覚める」といって、少し不機げんなのですが、けっこう、嫌いではないようです。わたしの家は、あまりコミュニケーションがある家ではありませんが、この日ばかりは少しちがうのです。市へ買い物へ行くのは主に祖母なので、「あれが今ない」とか「あれが欲しい」などと、少しばかりの会話が生まれてくるのです。

　祖母は、もう八十七才になるので、昔のように、外へ出歩くのは、少なくなったのですが、市へは、多くの知り合いの人達が、買い物にやってくるので、そのついでに、家へたちよってくる人も多いので、祖母はとてもうれしそうに見えます。わたしも、どんどん小さくなっていくような祖母が少しだけ、昔に戻るような感じがしてとてもうれしく思っています。

　父は、市のたつ日が、土・日だったりすると、だんごやさんと一緒に競馬の予想をしていたりします。母も、あまり近所づき合いというものをうまくしませんが、家の前の人などにあいさつをします。わたしも、朝、例え遅刻しそうでも、その場は走る足を止め、にっこりと笑ってくれるおばさん達に、わたしも、思わず、笑みをうかべて、あいさつをします。「いってらっしゃい」や「おかえり」といってもらえると、なんだかとても、明るい気持ちになれるような気がして、いい気分で登下校することができるのです。それは、わたしだけではなく、近所の人達や、わたしの家族も同じだと思います。そうなると、自然に家族全体が明るい感じになるのです。

　わたしが祖母と一緒に、市へ出かけると、小さなころから知ってる人達ばかりなので、わたしはとても、〝人気者〟になることができるのです。いろいろな人に「大きくなった」といわれると少し恥ずかしいような、うれしいような感じで、笑ってしまいます。しかし、心の中では、家族に「こんなにおおきくしてくれてどうもありがとうございます。」という気持ちが大きく、ふくれあがっていくのです。その日は、とても、母などに、優しく接することができるんです。母はそのことにきづいているのでしょうか。おそらく気づいていないことでしょう。

　わたしは、市がたつことがいつも、とてもうれしく思っている。家を出るまで、今日は市だということはわからないのだけど、家を出ると、その活気がわたしたちにパワーをくれるのです。だから、わたしがこの家を出るまでは、ありつづけてくれることを願っています。なぜならば、わたしたちの家庭と、地域を深くつなげる〝つな〟だからです。この市がなくなるとすれば、その〝つな〟も切れかけてしまうでしょうし、わが家のきずなもゆるくなってしまうのではないでしょうか。市から活気というものをもらい、わたしたちからもまた、何かおおくのものをわたすことができていると思います。

　市は、地域とのつながりを強め、また、わが家のコミュニケーションの一つの方法に一番いいものだと思っています。

　わが家が「明るい家庭」ということができるまでには、まだまだ、遠い道のりだと思いますが、月に数回だけ「明るい家庭」に近づくことが、出来ていると思っています。と、いうか、そう思い続けたいのです。そう思い続けていれば、いつか、「明るい家庭」になることができるのだと信じたいと思っています。

　わたしは、これからも、地域とのかかわり合いを深め、家族とも、仲よくやっていけたらいいと思います。

入賞作品に佳作を加えて、11月下旬に文集として発行し、入賞作品の表彰は2月下旬に行われている「青少年健全育成大会」の席上で行います。

黒埼町青少年育成町民会議